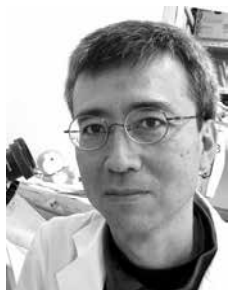


# 病理専門医研修ネットワークプログラム

## 1 はじめに



医療における病理医の役割はますます重要になっていますが、静岡県は2つの政令指定都市、2つの特例市をもつ有力県であるにもかかわらず、単位医師数当たりの病理医数は全国最低の状況にあります。西に隣接する愛知県東三河も同様の状況にあります。さらに両地域ともに病理医の高齢化も進んでいますが、それを補う若手病理医の養成は遅れています。このような状況を改善するためにも魅力的で、しかも各専攻医のニーズにあったテーラーメイド・プログラムを心がけております。本プログラムでは、浜松医科大学医学部附属病院病理診断科を基幹施設とし、3年間は専門研修連携施設をローテートして病理専門医資格の取得を目指します。連携施設には単独でも基幹施設となり得る実力を有した複数の総合病院、県立のがんセンターやこども病院など日本有数の実力を有する高度専門医療施設、複数の10万人以上規模の地方都市の中核総合病院などが含まれています。各施設をまとめると症例は豊富かつ多彩で、剖検数も十分確保されています。指導医も各施設に揃っています。病理医として成長していくための環境は整っています。静岡県病理医会を通じた病理医間の交流も盛んで、全県的に若手病理医を育てていこうという機運も高まっています。本病理専門研修プログラムに是非参加し、知識のみならず技能や態度にも優れたバランス良き病理専門医を目指してください。

なおこのプログラムは日本病理学会の主導で実施（平成29年度）の「静岡県・浜松医科大学病理専門研修プログラム」([http://pathology.or.jp/senmoni/22\\_03\\_412hamamatuidai.pdf](http://pathology.or.jp/senmoni/22_03_412hamamatuidai.pdf))に準拠しています。詳細は当該プログラムや日本病理学会のホームページを参照してください。また、このプログラムでは静岡県医学修学資金貸与者の都合に配慮した配置も考慮します。

浜松医科大学医学部附属病院病理部・病理診断科 部長 馬場 聡

## 2 目的

静岡県内に優秀な病理医を確保するため、研修病院・施設が協力して病理専門医を養成することを目的とします。

## 3 目標

病理専門医は病理学の総論的知識と各種疾患に対する病理学的理解のもと、医療における病理診断（剖検、手術標本、生検、迅速診断、細胞診）を的確に行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保するとともに患者を正しい治療へと導くことを使命としています。また医療に関連するシステムや法制度を正しく理解し社会的医療ニーズに対応できるような環境作りにも貢献し、さらに人体病理学の研鑽および研究活動を通じて医学・医療の発展に寄与するとともに、国民に対して病理学的観点から疾病予防等の啓発活動にも関与することが必要です。

本病理専門研修プログラムではこの目標を遂行するために、病理領域の診断技能のみならず、他職種、特に臨床検査技師（病理技師・細胞検査士を含む）や他診療科医師との連携を重視し、同時に教育者や研究者、あるいは管理者など幅広い進路に対応できる経験と技能を積むことも望まれます。

## 4 特徴

### 1. 豊富な経験症例数と疾患内容

本専門研修プログラムでは年間 190 例の剖検数、8 万件以上の組織診断数の割り当てが確保されているため、病理専門医受験に必要な症例数は余裕を持って経験することが可能です。

### 2. 豊富な学習機会

本専門研修プログラムでは各施設におけるカンファレンスのみならず、静岡県内の病理医が参加する各種研修会・症例検討会（特に静岡県病理医会 Shizuoka Pathologist Seminar; SPS への参加）、静岡がんセンター専門病理医養成研修会、他診療科とのカンファレンス等も用意されています。これらに積極的に出席して、希少例や難解症例にも直接接触れることができるよう配慮しています。

### 3. 地域医療の経験

本専門研修プログラムでは病理医不在の病院への出張診断（補助）、出張解剖（補助）、迅速診断、標本運搬による診断業務等の経験を積む機会を用意しています。

### 4. 学会などの学術活動

本研修プログラムでは、3年間の研修期間中に静岡県病理医会における年1回、および病理学会総会もしくは中部支部交見会における1回の筆頭演者としての演題発表を必須としています。そのうえ発表した内容は極力国内外の医学雑誌に投稿するように指導もします

## 5 研修カリキュラム

### 1. 病理組織診断

基幹施設である浜松医科大学附属病院と連携施設（1群と2群）では、3年間を通じて業務先の病理専門指導医の指導の下で病理組織診断の研修を行います。基本的に診断が容易な症例や症例数の多い疾患を1年次に研修し、2年次以降は希少例や難解症例も交えて研修をします。いずれの施設においても研修中は当該施設病理診断科の業務当番表に組み込まれます。当番には生検診断、手術材料診断、術中迅速診断、手術材料切り出し、剖検、細胞診などがあり、それぞれの研修内容が規定されています。研修中の指導医は、当番に当たる上級指導医が指導に当たります。各当番の回数は専攻医の習熟度や状況に合わせて調節され、無理なく研修を積むことが可能です。

### 2. 剖検症例

剖検（病理解剖）に関しては少なくとも最初の5例目までは原則として副執刀医として経験します。以降は習熟状況に合わせますが、基本的に主執刀医として剖検を担当（先輩病理医が副執刀医としてサポート）し、切り出しから診断、CPCでの発表まで一連の研修をします。さらに初期臨床研修での教育用CPCにおける初期臨床研修医のCPC提示とCPCレポート作成を指導することで自らも学習します。在籍中の当該施設の剖検症例が少ない場合は、他の連携施設の剖検症例も加えて研修を積みます。

### 3. 学術活動

病理学会（総会及び中部支部交見会）をはじめとする学術集会への積極的な参加を推奨しています。また3年間に最低1回は病理学会（総会及び中部支部交見会）で筆頭演者として発表し、可能であればその内容を国内外の学術雑誌に報告します。さらに毎年最低1回は静岡県病理医会(SPS)で筆頭演者として症例提示を行います。

### 4. 自己学習環境

基幹施設である浜松医科大学では専攻医マニュアル（研修すべき知識・技術・疾患名リスト）p.9～に記載されている疾患・病態を対象として、疾患コレクションを随時収集しており、専攻医の経験できなかった疾患を補える体制を構築しています。

## 6 研修例

※研修施設の分類・名称は次項「7 研修病院群」を参照してください。

パターン1（基本パターン、基幹施設を中心として1年間のローテーションを行う）

1年目；浜松医科大学医学部附属病院。剖検（CPC含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を主な目的とする。大学院進学可能（以後随時）

2年目；1群もしくは2群専門研修連携施設。剖検（CPC含む）とやや専門的な病理診断および基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会受講のこと。可能であれば死体解剖資格も取得する。

3年目；浜松医科大学医学部附属病院、必要に応じその他の研修施設。剖検（CPC含む）と専門的な病理診断および専門的な細胞診を主な目的とする。この年次までに細胞診講習会、分子病理講習会、医療倫理講習会、医療安全講習会、医療関連感染症講習会など、専門医試験受験資格として必要な講習会を受講のこと。

パターン2（1群連携施設で専門研修を開始、2年目は基幹施設で研修する）

1年目；1群専門研修連携施設。剖検（CPC含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を主な目的とする。大学院進学可能（以後随時）

2年目；浜松医科大学医学部附属病院。剖検（CPC含む）とやや専門的な病理診断および基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会受講のこと。可能であれば死体解剖資格も取得する。

3年目；1群もしくは2群専門研修連携施設、必要に応じその他の研修施設。剖検（CPC含む）と専門的な病理診断および専門的な細胞診を主な目的とする。この年次までに細胞診講習会、分子病理講習会、医療倫理講習会、医療安全講習会、医療関連感染症講習会など、専門医試験受験資格として必要な講習会を受講のこと。

パターン3（基幹施設で研修を開始、2・3年目は連携施設で研修を行う）

1年目；浜松医科大学医学部附属病院。剖検（CPC含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を主な目的とする。大学院進学可能（以後随時）

2年目；1群専門研修連携施設。剖検（CPC含む）とやや専門的な病理診断および基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会受講のこと。可能であれば死体解剖資格も

取得する。

3年目；1群もしくは2群専門研修連携施設、必要に応じその他の研修施設。剖検（CPC含む）と専門的な病理診断および専門的な細胞診を主な目的とする。この年次までに細胞診講習会、分子病理講習会、医療倫理講習会、医療安全講習会、医療関連感染症講習会など、専門医試験受験資格として必要な講習会を受講のこと。

パターン4（大学院生となり基幹施設を中心としたプログラム）

1年目；大学院生として浜松医科大学医学部病理学講座（腫瘍病理学講座、再生・感染病理学講座）。剖検（CPC含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を主な目的とする。これに加え、連携施設1群もしくは2群で週1日の研修を行う。

2年目；大学院生として浜松医科大学医学部病理学講座。剖検（CPC含む）とやや専門的な病理診断および基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会受講のこと。可能であれば死体解剖資格も取得する。これに加え、連携施設（1～3群）で週1日の研修を行う。

3年目；浜松医科大学医学部附属病院、必要に応じその他の研修施設。剖検（CPC含む）と専門的な病理診断および専門的な細胞診を主な目的とする。この年次までに細胞診講習会、分子病理講習会、医療倫理講習会、医療安全講習会、医療関連感染症講習会など、専門医試験受験資格として必要な講習会を受講のこと。加えて連携施設（1～3群）で週1日の研修を行う。

※施設間ローテーションは上記1～3のパターンでは1年間となっていますが、希望・事情により1年間で複数の連携施設間で研修することも可能です。

※静岡県医学修学資金貸与者の都合に配慮した配置も考慮します。

## 7 研修病院群

基幹施設：浜松医科大学医学部附属病院

連携施設1群（複数の常勤病理専門指導医がいる施設）：

静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、磐田市立総合病院、聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松医療センター、東京都健康長寿医療センター

連携施設2群（常勤病理指導医がいる施設）：

富士宮市立病院、静岡市立静岡病院、静岡県立こども病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、JA静岡厚生連遠州病院、豊川市民病院、豊橋市民病院、JA愛知厚生連渥美病院

連携施設3群（病理指導医が常勤していない施設）：

静岡済生会総合病院、市立御前崎総合病院、中東遠総合医療センター、浜松労災病院、蒲郡市民病院

## 8 研修期間

原則として3年間です。専門医取得まで延長を考慮します。